



報道機関 各位

糖尿病腎症重症化予防の啓発に役立つ 「腎機能(eGFR)チェックツール」を公開

2020年1月23日

公益社団法人日本糖尿病協会

公益社団法人日本糖尿病協会（理事長：清野裕／関西電力病院総長 所在地：東京都千代田区）は、糖尿病の合併症のひとつであり、透析導入の原疾患の第1位である糖尿病腎症の重症化予防に役立つため、「腎機能チェックツール」を開発し、ホームページでの提供を開始しました。

腎機能チェックツールは、糖尿病腎症の診断要素のひとつである **eGFR**（イージーエフアール／糸球体ろ過量）※1に着目し、eGFRの検査値を過去数回分入力することで、現時点での腎症の病期や腎機能の低下速度を算出できるソフトです。協和キリン株式会社（代表取締役社長：宮本昌志 所在地：東京都千代田区）の全面的な協力を得て、日本糖尿病協会が医療者向けに公開しました。

このツールは、医療機関での使用を想定しています。腎機能チェックツールで eGFR と尿検査をウェブ上で入力すると、その患者さんの現在の病期、低下速度の推移を表すグラフと1年間の eGFR 低下速度が表示されます。eGFR の検査値がない場合は、血清クレアチニン※2と性別・生年月日から、推算で eGFR を算出し、グラフ化することも可能です。

簡単な入力で患者さんの腎機能がグラフ化・可視化されるため、医療現場での治療効果を評価でき、指導が容易になり、また患者さんも自分の腎臓の働きの推移を視覚的に把握できるため、重症化予防の意識啓発や、積極的に治療に取り組む動機づけに活用することができます。

また、糖尿病や腎臓病を専門としないかかりつけ医に活用いただくことで、継続的な eGFR 測定的重要性を認識するとともに、腎臓専門医への適切な紹介時期の把握も可能となることから、糖尿病腎症における病診連携の促進にもつながります。

さらに、市町村の保健師が特定検診のデータを用いて eGFR のグラフ化を行うことにより、糖尿病腎症重症化予防の保健指導での活用も想定されています。

今回の腎機能チェックツール公開にあたり、当協会理事長の清野裕は次のように述べています。「日本糖尿病協会は、日本糖尿病対策推進会議の幹事団体として、糖尿病腎症重症化予防の取り組みに協力しています。糖尿病腎症は、血糖、血圧、脂質のコントロール、減塩、たんぱく制限、禁煙で腎機能の低下を抑制・遅延することが可能ですが、定期的な検査で患者さん自身が腎臓の働きを確認しておくことが重要です。この腎機能チェックツールが多く医療機関で活用され、人工透析導入が減少し、医療費の適正化につながることを期待しています。」

PRESS RELEASE

また、開発に携わった当協会理事の安西慶三（佐賀大学医学部 肝臓・糖尿病・内分泌内科教授）は、次のように述べています。「eGFR は、血液を 1 分間にろ過できる量を示す数値であり、腎機能を検証するうえで非常に重要な検査値です。継続的に eGFR を測ることで腎機能の推移を把握することができるため、医療機関はもとより、特定検診のデータが活用できる自治体の保健師の皆さんにこのツールを利用いただき、住民の糖尿病腎症重症化予防にお役立ていただきたいと思います。」

日本糖尿病協会は、糖尿病療養支援に役立つツールを開発・提供していますが、この腎機能チェックツールも無償で公開し、糖尿病腎症重症化予防の取り組みに貢献いたします。

「腎機能チェックツール」

日本糖尿病協会 HP→「医療スタッフの方へ」→「腎機能チェックツール」

<https://www.nittokyo.or.jp/>

※1 「eGFR」・・・腎臓の機能を表す検査値。腎臓で 1 分間に血液をろ過できる量を表す。

血清クレアチニン値、年齢、性別から推算する。

※2 「血清クレアチニン」・・・筋肉に含まれるたんぱく質の老廃物。腎臓の糸球体でろ過され

尿中に排泄されるが、腎臓機能が低下すると尿中に排泄される量が減少し、血液中にクレアチニンが溜まる。

■公益社団法人 日本糖尿病協会について

日本糖尿病協会は、糖尿病に関する正しい知識の普及啓発、患者及び家族への療養指導、国民の糖尿病予防、健康増進への調査研究を行うことを目的に、1961 年（昭和 36 年）に結成されました。会員数は、110,000 人。糖尿病患者とその家族、医師・看護師などの医療スタッフなどで構成されています。47 都道府県支部の下に約 1,600 の糖尿病「友の会」を置き、患者間の交流や、地域社会への糖尿病啓発活動を通じて、日本の糖尿病の抑制を目指しています。

■協和キリン株式会社について



協和キリンは、がん、腎、免疫疾患を中心とした領域で、抗体技術を核にした最先端のバイオテクノロジーを駆使して、画期的な新薬を継続的に創出し、開発・販売をグローバルに展開することにより、世界の人々の健康と豊かさに貢献する、日本発のグローバル・スペシャリティファーマとなることを事業ビジョンとしています。

詳細は <https://www.kyowakirin.co.jp> をご覧ください。

◇本件に関するお問い合わせ◇

公益社団法人日本糖尿病協会 担当：堀田

〒102-0083 東京都千代田区麹町 2-2-4 8F

TEL : 03-3514-1721 FAX : 03-3514-1725 email : hotta@nittokyo.or.jp

www.nittokyo.or.jp / facebook.com/nittokyo

あなたの腎臓の働きはどのくらい？

糖尿病性腎症は神経障害、網膜症とともに合併症の一つであり、透析導入の原疾患の第一位です。腎臓は血液をろ過して体内の余分な老廃物や水分を尿とともに体外に排出する働きをしています。

腎機能は1分間にろ過できる量eGFR（イージーエフアール）で表されます。糖尿病性腎症ではろ過する「フィルター」の目が粗くなり、最初にアルブミン、次にたんぱくが尿に漏れ出てきます。

さらに進行するとうろ過できる血液量が低下し、eGFRが30ml/min/1.73m²未満になったら腎症第4期（腎不全期）となります。さらに進行すると透析が必要となることがあります。



■ 糖尿病性腎症の病期分類

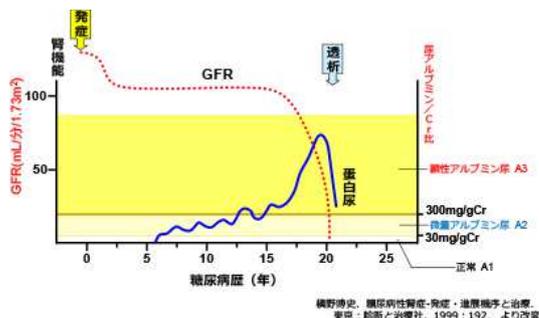
糖尿病性腎症の病期分類と経過は尿検査（タンパク尿、微量アルブミン尿）と血液検査（eGFR）でわかります。尿検査は腎機能を評価するために必要な検査です。6ヶ月に1回は検査しましょう。

病期	尿アルブミン値(mg/gCr) あるいは 尿蛋白値(g/gCr)	GFR(eGFR) (mL/分/1.73m ²)
第1期（腎症前期）	正常アルブミン尿（30未満）	30以上
第2期（早期腎症期）	微量アルブミン尿（30～299）	30以上
第3期（顕性腎症期）	顕性アルブミン尿（300以上） あるいは持続性蛋白尿（0.5以上）	30以上
第4期（腎不全期）	問わない	30未満
第5期（透析療法期）	透析療法中	

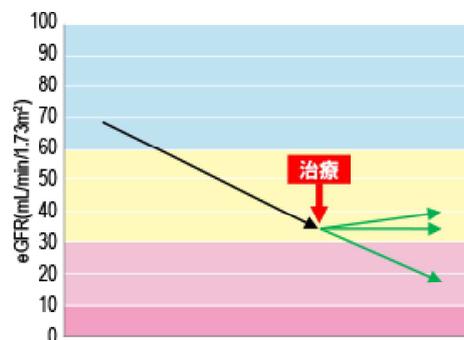
【重要な注意事項】本表は糖尿病性腎症の病期分類であり、薬剤使用の目安を表示した表ではない。糖尿病治療薬を含む薬剤特に腎排泄性薬剤の使用に当たっては、GFR等を勘案し、各薬剤の添付文書に従った使用が必要である。（2013年12月糖尿病性腎症合同委員会）

■ 腎症の経過

eGFRの値から腎機能の推移をみることができます。eGFRが年間5ml/min/1.73m²以上低下する場合は急速に腎機能が低下しています。



■ 治療後のeGFR推移：治療効果の評価



糖尿病腎症は血糖・血圧・脂質のコントロール、減塩、たんぱく制限、禁煙で腎機能の低下を抑制・遅延することが可能です。

性別： 生年月日：

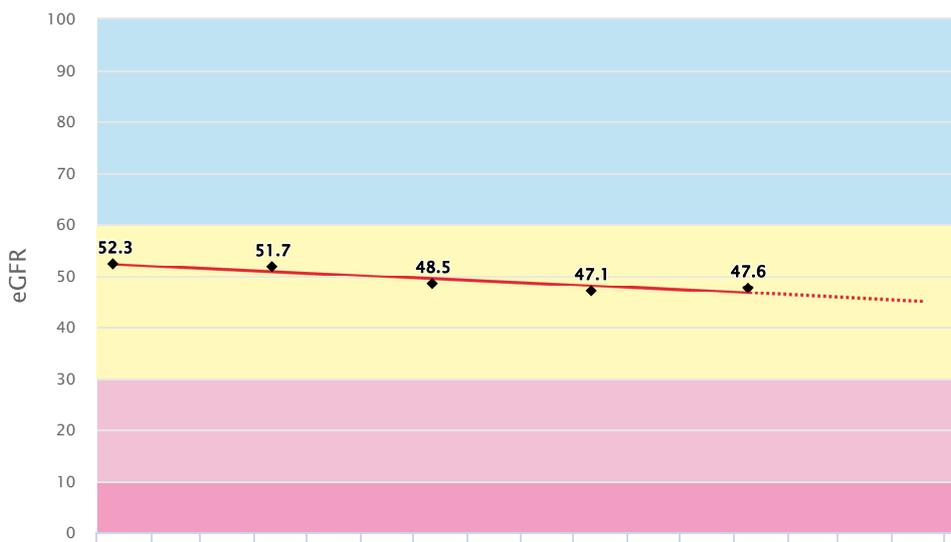
回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
日付	2018-01-10	2018-04-11	2018-07-12	2018-10-11	2019-01-09	<input type="text"/>						
血清Cr	<input type="text"/>											
eGFR	52.3	51.7	48.5	47.1	47.6	<input type="text"/>						
尿 Alb/Cr 比	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	89	<input type="text"/>						
蛋白尿 (定量) の 白/Cr 比	<input type="text"/>											
蛋白尿 (定性)	<input type="text"/>											

* 治療効果を評価する場合は、治療前・後で別に入力して、年間低下速度で比較してください。

■糖尿病性腎症病期分類

あなたの2019-01-09の病期分類は：**第2期 (早期腎症期)**
腎機能は軽度低下していると推定されます。

■eGFR推移グラフ



推定低下速度：あなたの腎臓の機能は、推定で年間 **5.6** 低下しています。

* 腎機能は変動するので、詳細な腎機能の推移はかかりつけ医や専門医の先生と相談して下さい。